



## 野鳥 カシラダカ

全長 15cm 冬鳥として渡来する。鷹の仲間を連想するが、実はホオジロ科の小鳥で、頭の上に小さな冠羽（かんう）があって立って見えるのが名前の由来。

# とうめい news

2023.11.1  
Vol. 267〒248-0034 厚木市船子237  
TEL. 046-229-3377  
発行者:河野 昌史  
編集責任者:佐藤 賢治  
印刷:(有)タイム21ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

## 緑内障は早期発見・早期治療が大事!

眼科:河野 雄亮

TOPICS

### <緑内障について>

以前はそれほど頻度の高い病気として認識されていませんでしたが、2000年～2002年に行われた疫学調査では40歳以上の日本人のうち20人に1人（有病率5%）が緑内障を患っているというデータが報告され、身近な病気であることがわかってきています。緑内障は主に眼圧が視神経に障害を加えることで、視野が欠けていく病気です。一度障害を受けた視神経は元に戻ることはなく、緑内障が進行して視野が狭い状態になってしまうと、治療を行っても視野を回復することはできません。そのため、怖い病気という認識をお持ちの方も多いと思いますが、早期に発見できれば失明まで至らずに進行を抑制できる病気です。今回は緑内障について簡単に解説します。

### <症状>

緑内障は視野が欠けている病気であるとお話しましたが、一気に狭くなるわけではなく、徐々に狭くなっていく病気です。また、進行しても痛みを伴うことなく、日常生活は両眼同時に見ていることもあり、初期の軽度の視野障害ではほとんど自覚することはありません。中期以降になると目のかすみや視野の欠損を自覚するため、比較的進んだ状態になってから受診される患者様がほとんどです。

### <原因とリスク因子>

緑内障の原因は現時点でもはっきりと分かっていませんが、リスク因子としては加齢、近視眼、高眼圧、ご家族に緑内障の方がいらっしゃる場合などが知られております。その中でも眼圧は以前よりリスク因子として知られておりましたが、日本人においては眼圧が正常範囲である緑内障（正常眼圧緑内障）が最も多いので、眼圧測定だけ行っても緑内障がないとは言えません。

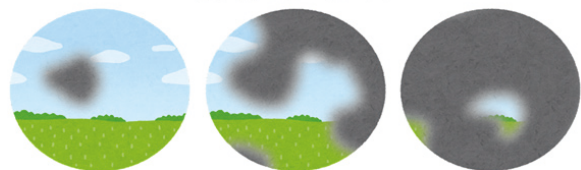
### <検査>

緑内障は初期症状の自覚がほとんどないからこそ、検査がとても重要です。緑内障は、眼圧や眼底検査、視野検査、眼底三次元画像解析（OCT）検査など様々な検査を行い総合的に診断します。健康診断を受ける際は眼科検査を一緒に受けるようにしましょう。また、その結果、視神経乳頭陥凹（しんけいにゅうとうかんおう）拡大と診断されることがありますが、緑内障疑いでもあります。そのような指摘をされたら、できるだけ早めに眼科で詳しい検査を受けるようにしてください。

### <早期発見・早期治療の重要性>

緑内障は、放置すると失明にまで至る怖い病気ですが、適切な治療で病気の進行を抑制することができます。近年は健康診断の際に眼圧検査だけでなく眼底検査やOCT検査が行われるようになり、自覚症状が出ていない極早期でも正確に緑内障が発見されるようになりました。緑内障は40歳を過ぎた方がなりやすく、年齢が上がるにしたがって有病率が高くなる病気です。早期発見、早期治療が非常に大切ですので、定期的に健康診断を受けることをおすすめします。

### 緑内障患者の見え方

[https://www.irasutoya.com/2016/03/blog-post\\_339.html](https://www.irasutoya.com/2016/03/blog-post_339.html)

初期

中期

末期